

むかしむかし、今から四百年以上も前に椿坂の山の上に釈導寺という大きなお寺がありました。そのお寺には黄金を混ぜて造った大きなお鐘があつて、音がとても美しく、しかも遠く浜の方まで鳴り響いたそうです。

ところが、このお鐘が鳴り出すと、どんなに静かな海でも急に波が荒くなつて、魚ができなくなつたそうです。困りはてた漁師たちは、みんなで相談して

「浜の方まで聞こえんように、お鐘をもうちよつと下の方へ降ろしてくださらんかの。」

と、頼みに来たのです。それで、椿坂の人達は話しあいました。

「どうやるの、下の方へ降ろそかの。」

「ほんなもんむりやぞ。あんな大きなお鐘動かされんぞ。」

「ほやけど、浜の人がほんに困つていなはるんなら、何とかしてあげようけの。」

と、話し合つて、寺の堂もお鐘も『ダイノクドン』という平らな所に降ろすことにしました。谷

や川を渡り、狭い坂道を上がったたり下がったりして、やっと『ダイノクドン』の近くまで来ました。

その時、お昼になつたので、

「腹へつたな。みんないっしょで飯にしるか。あともう少しやで、

一息ついて昼から又しようけの。」

「ほや、うらも腹へつた。ほんならほうしるか。」

と、皆風ごはんを食べに帰りました。

すると、どうしたことがお鐘は急に大きな音をたてて、林の中から

沼のふちへと転がり落ちてしまいました。椿坂の人は、

「おそいこつちや、おそいこつちや、お鐘がごろばつて落ちつてもた。」

「どうしたもんじやろ、こりやあ・うららだけでは、あげられんな。」

と、大さわぎし、河和田の人に集まってもらつてお鐘を引きあげようとなりました。でもあがる

どころか、沼の中にだんだんと沈んでしまいました。

それからこの付近を『鐘ヶ窪』というようになったそうです。

